

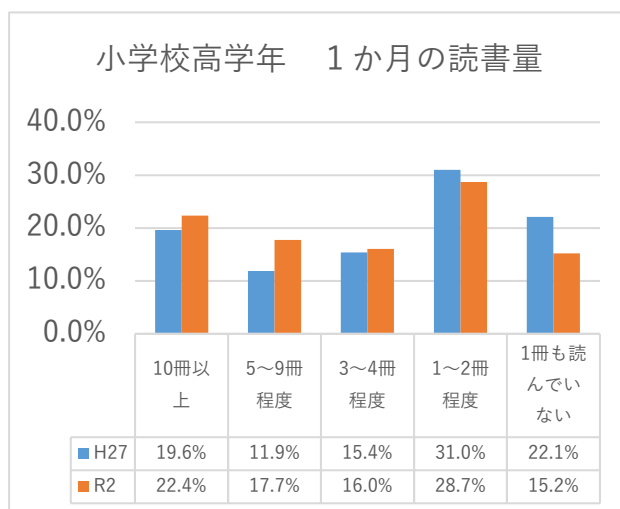
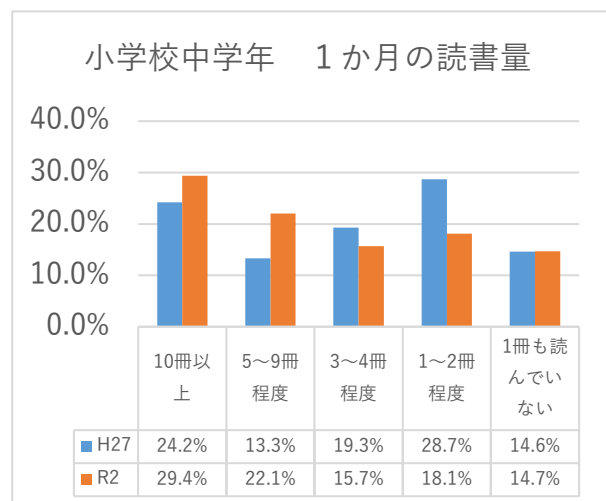
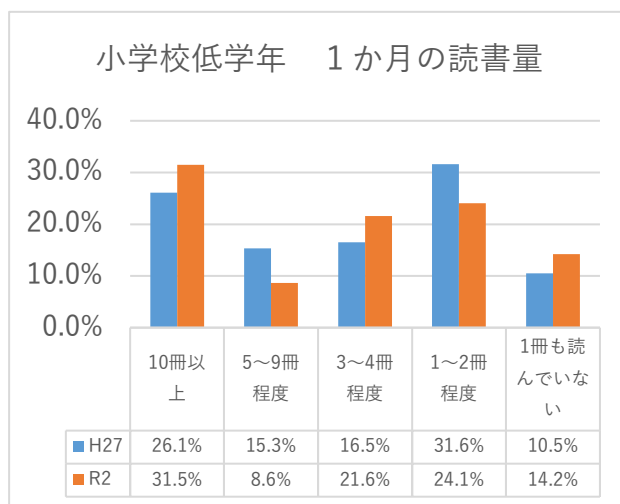
第4次美唄市子ども読書活動推進計画【概要版】

1 美唄市における子ども読書活動の現状

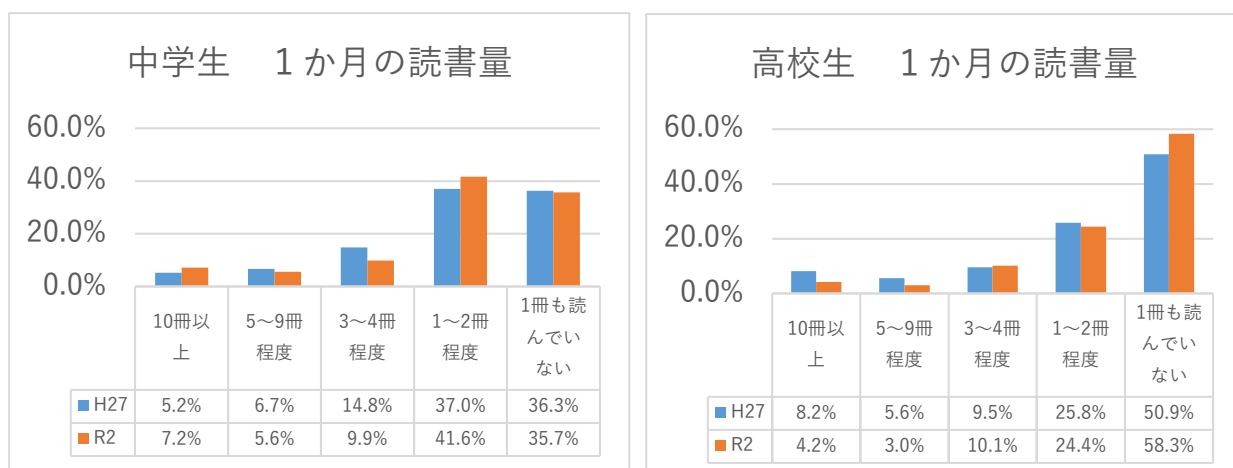
令和2(2020)年7月に実施した「児童生徒の読書活動に関するアンケート」※1(以下、「2020 アンケート」という。)において、1か月に1冊も本を読まなかった「不読者」の割合(不読率)は、小学校低学年14.2%、中学年14.7%、高学年15.2%、中学生35.7%、高校生58.3%との結果(下表、次ページ)が出ました。

第65回学校読書調査(2019年)における全国の1か月の不読率が、小学生は6.8%、中学生は12.5%、高校生は55.3%となっており、全項目において美唄市の子どもたちが大幅に不読率の高いことが示されました。また、平成27(2015)年6月に実施した「児童生徒の読書活動に関するアンケート」の結果と比較しても、不読率が増加しています。

○ 市内小・中・高等学校の児童・生徒の1か月間の読書量



※1 美唄市内の全小・中学生、美唄尚栄高校生、各保育所を対象にアンケートを令和2(2020)年7月に実施。小学生664名に配布(回収率94%)、中学生385名に配布(回収率98%)、高校生168名に配布(回収率100%)、未就学児保護者153名に配布(回収率78%)。



○ 計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

本計画は、令和2(2020)年度で第3次計画が終了することから、これまでの5年間の取組の成果と課題を始め、国及び北海道の計画を踏まえ、本市のすべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動ができるような環境整備に取り組めます。

2 計画の基本方針

子どもに関係する機関・団体等と相互に連携しながら、すべての子どもたちが読みたい本を自由に選び、読書の楽しみを知ることができる読書環境づくりの推進に努めます。

(1) 家庭、地域、学校等を通じた社会全体での子どもの読書活動の推進

- ア 家庭における読書活動の推進
- イ 地域における読書活動の推進
- ウ 学校等における読書活動の推進

(2) 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備

- ア 地域における読書環境の整備
- イ 学校等における読書環境の整備

3 計画の対象

0歳からおおむね18歳を計画の対象とし、大きく4つの期(乳幼児期、小学生期、中学生期、高校生期)に分けて推進します。

4 計画の位置づけと計画期間

本計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律第9条第2項に基づく、市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画です。

計画の期間は、令和3(2021)年度から令和7(2025)年度までの5年間とします。

○ 子どもの読書活動推進のための方策

家庭、地域、学校等で具体的な取り組みを行うに当たっては、読書に関する発達段

階ごとの特徴・傾向があることを踏まえつつ、乳幼児・児童・生徒の一人ひとりの発達や読書経験に留意し取組を進めることが重要です。

1 乳幼児期（0歳～6歳）

【美唄市の子どもの傾向】

「2020 アンケート」の結果を見ると、市立図書館や子育て支援センターにおいて絵本読み聞かせ事業を行っていることは80%以上の保護者に認知されていますが、そのうち70%以上が参加したことがないと回答しています。また、図書館児童室への利用についても約70%が利用したことがないと回答しており、参加しやすい・利用しやすい環境づくりが必要です。

2 小学生期（6歳～12歳）

【美唄市の子どもの傾向】

「2020 アンケート」の結果を見ると、低学年から高学年を通して不読者数が約15%と一定数いることがわかります。大半の児童が自宅もしくは学校にて読書するという回答を踏まえ、家庭における読書の普及を図るほか、学校内での読書環境を整えるとともに各学校において朝の読書を継続することで読書に親しむ習慣を育み不読者の減少に努めます。また、ICT教育※2導入に伴い児童一人ひとりが情報通信機器を持つことが可能となりました。電子書籍へ興味関心のある児童がどの学年においても半数を占めていることも踏まえ、電子書籍の導入を進め紙書籍以外の選択肢を増やすことでより読書の幅を広げることができます。

※2 ICTとはInformation and Communication Technologyの略称で、IT技術を使ってコミュニケーションをとっていく教育方針や取り組み。例として、先生がタブレットで作成した資料を、生徒全員の端末に共有して授業を行うなど。

3 中学生期（12歳～15歳）

【美唄市の子どもの傾向】

「2020 アンケート」の結果を見ると、部活動が始まり本に充てる時間が少なくなる生徒が増えていることがわかります。多読の傾向が薄れ、読みたい本が見つからない・本に興味がなくなる生徒も増加傾向にあり、本に関する情報の提供や興味を抱くことができる本に巡り合うきっかけを作ることが必要となります。

また、小学校と同じくICT教育導入に伴い生徒一人ひとりが情報通信機器を持つことが可能となりました。電子書籍へ興味関心のある生徒が58%いることも踏まえ、電子書籍の導入を進め紙書籍以外の選択肢を増やすことでより読書の幅を広げることができます。

4 高校生期（15歳～18歳）

【美唄市の子どもの傾向】

「2020 アンケート」の結果を見ると、授業以外で学校図書館や公立図書館を利用したことのない生徒がおおよそ50%、本を読む習慣のない生徒はおおよそ60%います。

求めている本と出会うことが難しくなり、手に入れることができない状況が続くと本を読まない人が増える傾向にあるため、さまざまな本との出会いを提供する環境づくりが必要です。

<目標指数>

事業名	基準年度の状況 (R 1)	目標年度の数値 (R 7)
ブックスタート事業	7 か月児配布率 96.97%	7 か月児配布率 97.00%
	3 歳児配布率 84.62%	3 歳児配布率 85.00%
読み聞かせ事業	年間参加組数	年間参加組数
	図書館 61 組 (延) はみんぐ 121 組 (延)	図書館 70 組 (延) はみんぐ 140 組 (延)
読み聞かせ活動	学校支援地域本部事業 ボランティア回数 58 回 (延)	学校支援地域本部事業 ボランティア回数 60 回 (延)
配本事業	年間貸出冊数 4,235 冊 (延)	年間貸出冊数 4,870 冊 (延)
「朝の読書」活動	開催校 全校	開催校 全校

<目標指数 (アンケート) >

内容	基準年度の状況 (R 1)	目標年度の数値 (R 7)
不読者数	小学生低学年 14.2%	小学生低学年 12.0%
	小学生中学年 14.7%	小学生中学年 12.5%
	小学生高学年 15.2%	小学生高学年 13.0%
	中学生 35.7%	中学生 33.5%
	高校生 58.3%	高校生 55.0%
不読者数 (読み聞かせ)	未就学児保護者 10.0%	未就学児保護者 8.0%
図書館、学校図書館未利用者	小学生低学年 13.8%	小学生低学年 10.0%
	小学生中学年 6.3%	小学生中学年 5.0%
	小学生高学年 5.1%	小学生高学年 3.0%
	中学生 14.0%	中学生 10.0%
	高校生 49.4%	高校生 30.0%
図書館児童室 未利用者	未就学児保護者 69.2%	未就学児保護者 50.0%